

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：12605

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25850158

研究課題名(和文)トルコ農村社会の異質性と社会的ネットワークの機能に関する経済学的研究

研究課題名(英文)Economic investigation on the function of social network and the heterogeneity in rural society of Turkey

研究代表者

草処 基 (Kusadokoro, Motoi)

東京農工大学・(連合)農学研究科(研究院)・講師

研究者番号：90630145

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：異質性の高い農村社会が形成されているトルコ共和国のアダナ県灌漑地域において、農家と農業労働者の間の関係性(社会的ネットワーク)に着目した家計調査を行った。調査結果を用いて社会的ネットワークの数量化を試みた。社会的ネットワークは農家間、農業労働者間それぞれに分断されている傾向をもっていた。このような状況の中で、仲介人と呼ばれる人々が農家と労働者の間に入ることにより農業労働市場は機能しており、地域の農業を支える重要な役割を果たしていた。

研究成果の概要(英文)：This study conducted household survey with special focus on the relationship (social network) between farmers and agricultural workers in the irrigated area in Adana prefecture in Turkey with highly heterogeneous social structure. We quantified the social network of surveyed households using the data which capture the quantitative and qualitative aspects of network. The network of rural households is divided into one composed mainly of farmers and one composed mainly of agricultural workers. Under such environment, intermediaries served to mitigate the seasonal workers' lack of a network with farmers and played a key role in the seasonal agricultural labor market of the area.

研究分野：農業経済学，開発経済学

キーワード：社会的ネットワーク 移住 労働市場 土地市場 経済格差 トルコ

### 1. 研究開始当初の背景

伝統的なミクロ経済学においては、市場に関する情報を完全にもち、他人や属する社会に影響されることなく独立に行動する個人(家計)が経済主体として想定されており、個人の属する社会・制度や他人とのつながりが経済行動に与える影響は軽視されてきた。

しかし、外部からの情報が限られ、かつ、経済活動を支える法制度が未整備な経済発展途上にある農村社会に住む人々は、親戚・友人、農村内の組織など、個人が属する社会内の他者とのつながり(社会的ネットワーク)を、経済活動に必要な情報源や信頼の担保として利用し、労働市場への参加、農業技術・作目の選択、農産物の販売、保険、教育などの経済活動に従事していることが明らかにされつつある(Bandiera and Imran, 2006; Kajisa, 2007)。しかしながら、既存研究では、農村社会に高い異質性が存在するときに社会的ネットワークが果たす機能や村内の経済格差に与える影響については十分に解明されてこなかった。

### 2. 研究の目的

本研究の対象地域であるトルコ共和国アダナ県では、南部に広がるチュクロバ平原を中心に、セイハン・ジェイハンの二つの河川を利用した灌漑農業が行われている(図1)。メイズや大豆などの機械化体系が整った作物に加え、柑橘類、スイカや葉物野菜などの多様な換金作物が栽培され、これらの作物は労働集約的な技術により栽培されている。

対象地域の労働集約的農業は、開発の遅れた南東部アナトリア地方から来る季節労働者によって支えられている。季節労働者の中には、クルドやアラブといった非トルコ系民族が多く含まれるため、対象地域では異質性の高い社会が形成されている。本研究では、アダナ県灌漑地域の農業労働市場に着目し、異質性の高い農村社会における社会的ネットワークの機能について、以下の2点を明らかにすることを目的とする。

(1) 農家と労働者間の経済状況を複数の側面から検討し、農村内階層間の経済格差を明らかにする。それと共に、農村社会内における社会的ネットワークの強さとその異質性を明らかにする。

(2) 対象地域の季節農業労働者の多くは、仲介人を通して農家と労働契約を結んでいる。この仲介人の役割を農家と季節労働者間のネットワークの観点から明らかにする。

### 3. 研究の方法

アダナ県の灌漑農村部において、農家、年雇用農業労働者、季節農業労働者を対象とした家計調査を実施する。世帯構成、農業経営、就労状況などの基礎的な項目に加え、農村内の主要アクター(農家、農業労働者、村長、

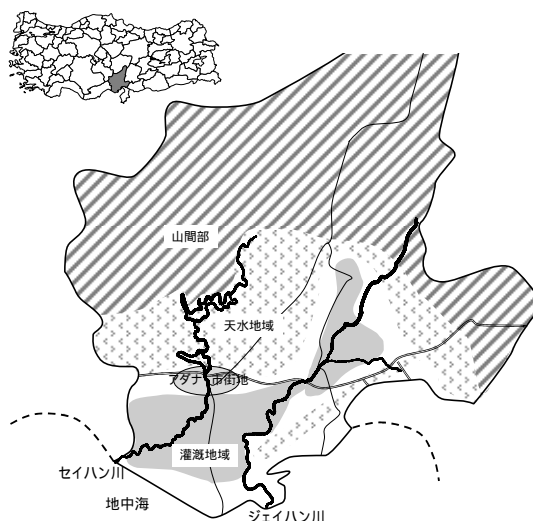


図1 アダナ県の地図

仲介人など)との付き合いに関する質問をすることにより、調査世帯の社会的ネットワークの状況を把握する。家計調査で得た世帯レベル及び個人レベルのミクロデータを記述統計及び計量経済学的手法を用いて分析する。

### 4. 研究成果

(1) 2013年9月と2014年9月に家計調査を実施した。調査世帯数は、農家世帯が78件、年雇用労働者世帯が18件、季節労働者世帯が33件の計129件である。なお、2015年も調査を実施する予定であったが、シリア難民の流入により治安が懸念されたため、調査を断念せざるを得なかった。

農家世帯の34%が移住世帯(世帯主、もしくはその父親が県外からの移住者であるときに移住世帯と定義)である一方、労働者世帯では約80%が移住世帯であった。年間平均所得は、農家世帯が63,000TL、年雇用労働者世帯が24,000TL、季節労働者世帯が14,000TLであり、農家世帯と季節労働者世帯間で約4倍の格差が生じている。耐久消費財の所有状況を見ても(図2)、携帯電話などの必需性の高い財を除き、季節労働者世帯の所有率は低

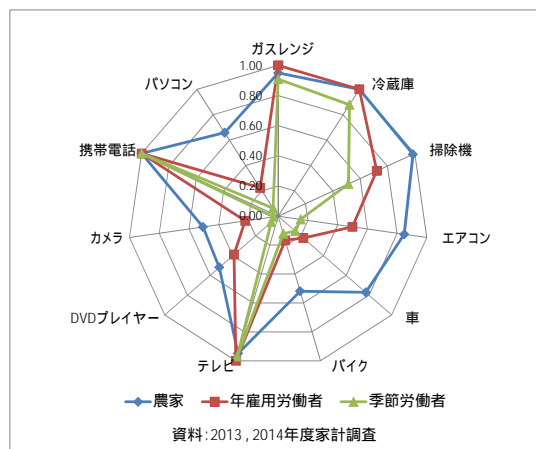


図2 耐久消費財所有状況

くなっていた。

14歳以下の児童労働は季節労働者世帯でのみ観察され、また、女性の労働参加も季節労働者世帯で多くなっていた。トルコの農村部では、経済発展と共に児童労働の減少や家計に余裕のある世帯において既婚女性の専業主婦化が進んでおり（State Planning Organization of Turkey and World Bank, 2009）、家計に余裕のない季節労働者世帯において子供や女性の労働参加が行われていると考えられる。

調査世帯に対し、日常生活において付き合いのある農村内の主要アクター別の人数（量的側面）及び、その会話内容（質的側面）について調査を行った。まず、階層間においてネットワークに差が生じているか否かを統計的に検証した。その結果、農家世帯は農家を中心としたネットワークを形成し、逆に、季節労働者は労働者を中心としたネットワークを形成しており、両者の間のネットワークに差が生じていることが明らかになった。

さらに、ネットワークに関する質問項目の結果に対し主成分分析を適用し、ネットワークの数量化（ネットワーク・インデックスの抽出）を試みた。固有ベクトルの係数から、第一主成分は農家中心のネットワークを、第二主成分は季節労働者中心のネットワークを抽出していると結論付けられた。

図3に示すように、農家中心のネットワー

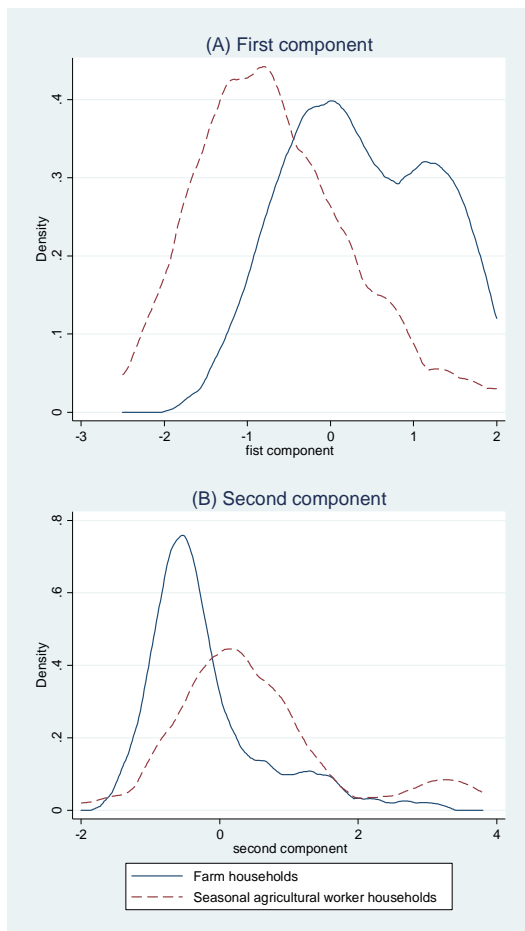


図3 ネットワーク・インデックスの分布

クを表す第一主成分の分布は、農家世帯が季節労働者世帯よりも右に位置している。逆に、季節労働者中心のネットワークを表す第二主成分の分布は、季節労働者世帯が農家世帯よりも右に位置しており、先の分析の結果を支持する結果となった。

農家世帯を移住世帯と非移住世帯に分け、両者でネットワークに差が生じているかを検証した。量的な側面では差がなく、質的側面においてのみ差が観察された。移住農家世帯は農地を獲得し農村に定着する過程において農村内でネットワークを形成していくと考えられる。ネットワークの形成過程や農地の取得におけるネットワークの役割について2015年度に詳しく調査を行う予定であったが、上で述べたように、2015年度の調査は中止せざるを得なかった。移住農家世帯のネットワークに関する分析は今後の課題としたい。

(2) 研究成果(1)は、農家と季節労働者の間での、良好なネットワークの形成に困難を抱えていることを示唆している。季節労働者の多くは親の世代からアダナ県に季節移住を繰り返しており、新しく移住したためにアダナ県に知り合いがおらずネットワークの形成が不足しているという状況は考えにくい。農家と季節労働者間のネットワークの不足の背景に、民族間の対立や文化的な差異が少なからず関係していると考えられる。

一方で、労働市場が機能するためには、雇用者と被雇用者との間で円滑にマッチングが行われることが必要である。情報の非対称性が大きい途上国の労働市場においては、情報の非対称性を補うために、雇用者と被雇用者の個人的なネットワークを利用してマッチングが行われている（Kajisa, 2007）。特に、雇用者である農家と季節労働者がネットワークを形成しにくい環境にあるアダナ県の灌漑地域の労働市場では、ネットワークの不足を補う仕組みが不可欠である。

上で述べたように、アダナ県の季節農業労働市場では、仲介人を通じた間接契約が主流となっている。この仲介人制度が、農家と労働者とのネットワークの不足を補い、両者のマッチングを助ける役割を果たしていると考えられる。

仲介人の多くは、綿花栽培が盛んであったころから労働者のグループと血縁・地縁関係をもち、グループを代表して農家との交渉にあたり、かつ、労働者を管理してきた人やその子孫である。仲介人と労働者との間で家父長的な関係性が構築されている場合が多い。既存研究では、仲介人と季節労働者間の家父長的な関係性に着目されてきた一方で、マッチングを助けるという仲介人の役割について着目されてこなかった（Durviz, 2013）。

季節農業者の農家とのネットワークの不足を仲介人が果たしているか否かを、回帰分析により検証した（表1）。被説明変数は季節

表1 季節労働者の年間労働日数とネットワークの関係

	Model 1	Model 2
A. ネットワーク・インデックス		
第一主成分	3.981 (12.726)	61.584** (28.479)
第二主成分	3.365 (7.242)	58.173 (34.616)
仲介人契約ダミー		-52.754 (32.410)
第一主成分 × 仲介人		-62.022* (30.999)
第二主成分 × 仲介人		-52.754 (35.308)
その他変数	Yes	Yes
観測数	90	90
R2	0.301	0.330
B. 出生地		
シャルルウルファ県ダミー	42.963** (19.946)	-21.507 (31.770)
仲介人契約ダミー		-46.658* (23.721)
シャルルウルファ県ダミー × 仲介人		85.868** (37.613)
その他変数	Yes	Yes
観測数	90	90
R2	0.353	0.399

農業労働者の年間労働日数であり、図3に示したネットワーク・インデックスを労働者の社会的ネットワークの代理変数として説明変数に加えた(A. Model 1)。さらに、労働契約が仲介人を通じた間接契約であった場合に1をとる仲介人契約ダミー及び、仲介人契約ダミーとネットワーク・インデックスとの交差項を加えたモデルも合わせて計測した(A. Model 2)。

仲介人との契約を説明変数に入れないモデルでは、ネットワーク・インデックスは労働日数に有意な影響を与えなかった。しかし、仲介人との契約を考慮したモデルでは、労働者の農家とのネットワークを表す第一主成分は正に有意の影響を与えており、季節労働市場において農家と労働者との間のネットワークが重要であることを示唆した。さらに、第一主成分と仲介人契約ダミーの交差項は有意に負であり、仲介人は農家と労働者との間のネットワークの不足を補う役割を果たしているという仮説が支持される結果となった。

南東部アナトリア地方の各県から季節労働者は集まっているが、シャルルウルファ県出身の労働者や仲介人の割合が最も高くなっている。シャルルウルファ県出身ダミーを労働者と代理人との地縁・血縁関係の代理変数として用いて、労働者と代理人との関係性が労働者の労働日数に与える影響を計測した(表1B)。

シャルルウルファ県出身の労働者は、他県出身の労働者と比べて多くの労働日数を獲得できている。しかしそれは、仲介人を間に通した場合に限定され、農家と直接的に契約を結ぶ場合には、出身県は関係しない。この背景には、1.仲介人が地縁・血縁関係を重視しシャルルウルファ出身の労働者に優先的に仕事を斡旋している、2.シャルルウルファ

県出身の仲介人は、地縁(血縁)関係を利用してアクセスできる季節労働者の数が多く、より多くの仕事を農家から獲得できるといった状況があると考えられる。

これらの研究成果は、仲介人システムが異質性の高いアダナ県の灌漑地域の労働市場を成立させるために不可欠な制度であることを示している。一方で、仲介人システムもまた地縁・血縁関係によるネットワークを元に成立しており、それが季節労働者層内の経済格差につながってしまっている。

現在のアダナ県では、地縁・血縁関係に依拠しない新しいタイプの仲介人が登場しつつあると言われている(Çetinkaya, 2008)。この「新しい」仲介人が成功すれば、仲介人と労働者との間の家父長的關係性の解消や仲介人と地縁・血縁関係を持たない労働者の厚生への改善への寄与が期待できる。しかし、本研究で行った調査において新しい仲介人の活動を確認することはできなかった。従来仲介人に対する競争力の低さが新しい仲介人の普及を妨げていると考えられる。新しい仲介人の競争力をどのように高めていくのか、政策介入が含めた慎重な戦略が求められる。

#### <引用文献>

Bandiera, O. and R. Imran, Social networks and technology adoption in northern Mozambique. *Economic Journal*, 116(514), 2006, pp. 869-902.

Çetinkaya, Ö., Farm labor intermediaries in seasonal agricultural work in Adana-Çukurova (Unpublished master's thesis). Middle East Technical University, Ankara, Turkey, 2008.

Duruiz, D., Seasonal farm workers: pitiful victims or Kurdish laborers demanding equality? (II). *Perspectives-Political Analysis and Commentary from Turkey* 4, (2013), pp. 44-49.

Kajisa, K., Personal Networks and Nonagricultural Employment: The Case of a Farming Village in the Philippines. *Economic Development and Cultural Change*, 55(4), 2007, pp. 669-707.

State Planning Organization of Turkey and World Bank, Female Labor Forces Participation in Turkey: Trends, Determinants and Policy Framework, The World Bank, 2009.

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

Kusadokoro, M. and A. Hasegawa, The

influence of internal migration on migrant children's school enrolment and work in Turkey. *European Journal of Development Research*, 29(2), 2017, pp. 348-368. [査読有]

草刈 基、近代技術の導入と農村経済、*アグリバイオ*、1(5)、2017、pp. 70-73 [査読無]

Kusadokoro, M., T. Maru, and U. Gültekin, Networks and intermediaries in seasonal agricultural labor markets in Turkey. *International Journal of Food and Agricultural Economics*, 4(2), 2016, pp. 51-67. [査読有]

<http://ageconsearch.umn.edu/record/234910>

丸 健、草刈 基、トルコ農村部における社会慣習と女性労働に関する意識形成 アダナ県低平地地域を事例として、*農業経済研究*、87(4)、2016、pp. 406-411 [査読有]

草刈 基、丸 健、トルコ共和国アダナ県灌漑農業地域における農業労働市場と階層間の社会的ネットワーク、*開発学研究*、25(3)、2015、pp. 27-36 [査読有]

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

草刈 基 (KUSADOKORO, Motoi)

東京農工大学・大学院農学研究院・講師  
研究者番号：90630145

### (2) 研究協力者

丸 健 (MARU, Takeshi)

一橋大学・経済研究所・講師  
研究者番号：10721649

GÜLTEKIN, Ufuk

Çukurova University, Faculty of Agriculture, Assistant Professor